

株主並びに取引先各位

平成 19 年 6 月 11 日
日本精密株式会社
代表取締役社長 宮田 治

当社の筆頭株主である株式会社エムアンドエフシーが、平成 19 年 6 月 8 日付にて日本精密株式会社株主各位に発送した文書について

当社は、前筆頭株主であった篠辺貞道氏（以下、篠辺氏）並びにプラコム株式会社（以下、プラコム）が所有する、平成 18 年 6 月 28 日発行の当社「新株予約権証券」の株式会社エムアンドエフシー（以下、M&FC）への譲渡を承認いたしました。が、篠辺氏とプラコム及び M&FC の 3 者間での合意と称されている内容については、一切関知しておりません。従いまして、M&FC と当社との間でなんら一切の合意事項は存在せず、合意を一方的に反故にした事実も存在いたしません。

篠辺氏が当社の実質的支配権を有するというのは M&FC の錯誤であり、当社取締役会に対する誹謗冒瀆であります。当社取締役会は、コンプライアンスを重視し、多数の反対意見を無視する専制君主制の統治を行っておりません。取締役会の合議で決議されたものを実行しており、「株式会社宝屋」の案件についても昨年 5 月より検討されていた案件であります。M&FC が筆頭株主としての権威を主張し、正規の手順を踏まないで当社の帳簿閲覧を請求した折、当社がコンプライアンスを尊重してお断りをしたことを申し添えます。

M&FC は韓国でのエンターティメント事業を、上場会社である当社の信用力を利用して日本で拡大することを目的としており、当社の経営権確保が新株予約権を譲り受けた理由であることを当社取締役会に伝えることをせずに、乗っ取りを計ったものであると考えております。当社のステークホルダーにとって、これ以上の M&FC の株式保有割合の増加はマイナスであると取締役会は考えております。さらに、既存事業の取引先にとってエンターティメントという、製造業とは対角にある事業が主体となる不安を払拭することも、取締役会の課題であると考えております。

当期の実績は、特別損失により株主の皆様のご期待に反する結果となりましたこと、深くお詫び申し上げます。但し、発表されております数字で明白なとおり、営業実績は確実に回復しております。当社の発展は、既存ビジネスの拡大発展と技術開発による他社との差別化によりなされると考えております。今後とも株主及び取引先各位のご理解とご指導をよろしくお願い申し上げます。